

土庄町中心部のアイランドタウン創生プラン・基本構想の策定についてのパブリック・コメントの実施結果について

1 案件名

土庄町中心部のアイランドタウン創生プラン・基本構想の策定について

2 意見募集期間

令和6年10月1日（火）から令和6年10月31日（木）まで

3 意見募集結果

5人の方から、10件のご意見がありました。

4 寄せられたご意見と町の考え方

※提出いただいたご意見は、趣旨を変えない範囲で簡素化又は文言等の調整をしています。

No欄の枝番号は、一人の方からのご意見であることを表しています。

No.	ご意見	町の考え方
1-1	P.4 3-3 整備方針について 「住民にとっても観光客などにとっても魅力的なエリアとなり、人が集まり、滞在時間が長くなるような施設や機能の整備を図るものとする。」と方針を示している。 「魅力的なエリア」とは産業会館（特別な色表示が計3か所）の建設を前提にしているのか。 P.18に旧庁舎跡地は2027年度に建設工事、中央公民館は2027年度に工事と表記している。 魅力的なエリアの評価（指標）はないが建設工事はするという資料で、基本構想になっていない。	P.4に記載している整備方針に沿って旧庁舎跡地の利活用等について検討したところですが、旧庁舎跡地に建設する施設については、3つの基本目標を設定し、①産業の拠点（産業会館） ②観光の拠点（飲食・物販施設） ③交流の拠点（つどいの場）となる複合施設を建設することとしたところで、産業会館だけをつくろうとするものではありません。 P.18のスケジュール(案)は、概ねの工事着手時期等を示しているもので、今後の進捗状況により変更の可能性があるものです。 「魅力的なエリア」の評価軸は、今後、住民とともに考えていく必要があります。土庄町中心部を魅力的なエリアとするためには、ハードとソフトの両面からの取組みが必要ですが、旧庁舎跡地へ産業・観光・交流の3つの拠点となる施設を建設することは、エリアの魅力を増やすために有効かつ重要な施策の一つであると考えています。
1-2	滞在時間が長くなるような施設とは、産業会館なのか。 現状把握と今回の設備投資による滞在時間の比較検討はしているのか。比較検討も出来ない滞在時間という単語を整備方針として書くべきではない。	産業・観光・交流の3つの拠点となる複合施設を構想しており、産業会館だけではありません。 滞在時間の正確な調査等はありませんが、土渕海峡の観光客動向等から、土庄町中心部における滞在は限定的で、どちらかといえば通過地点となっていると認識しています。 滞在時間が長くなることにより、需要が生まれ、関係人口や交流人口が増加することが期待され、その効果は多方面に及ぶことから、滞在時間を増やすことは重要であると考えています。

1-3	総工費は 100 億円を超えると予想する。 町の人口が毎年 300 人超で減少する中、財政破綻と人材破綻を検討しないのか。約 $12,000 \text{ 人} \div 300 \text{ 人} / \text{年} = 40$ 年後に町民は消滅する。恐ろしい早さで消滅自治体へ進む将来を考えて、この構想を立案した事が恐ろしい。正気か。	総工費については、施設の規模や機能等により大きく変動するので、現時点では不明です。今後、基本計画の策定や整備手法の検討を行う過程において、身の丈に合った規模や機能の検討をしていく必要があると考えています。 人口減少が進む中、厳しい財政状況を勘案しなければならないのは当然であり、負担軽減のため、官民連携による事業手法の検討や、国からの交付金や補助金の活用を積極的に図っていきます。
1-4	この計画が竣工しても町民の幸福度が上がるとは思えない。「魅力的なエリア」と感じ何回もお金を使うか。滞留時間が長くなるような施設とは、産業会館なのか。	旧庁舎跡地の利活用については、これまで行ってきた周辺地区の関係者からの意見聴取や、一般住民・町内事業者によるワークショップなどで出された意見を踏まえた上で、町としての考察を加えて基本構想としてまとめたものであり、町民の要望やご意見を取り入れたものになっていると認識しています。
1-5	最優先は、若者が将来安心して暮らせること、生き生きと働き家庭が持てる収入、新生児を安心して育てる町づくりである。これが町の持続可能な創生プランと考える。 町民 1 万人を維持するための新生児数は、年間 200 人の新生児 $\times 80 \text{ 年} = 16,000$ 人で、現在は $50 \text{ 人} / \text{年} \times 80 \text{ 年} = 4,000$ 人で、ほとんど島外へ出る現実がある。	持続可能なまちづくりのためには、子育てなどの福祉施策とともに、経済を活性化させ、賃金や働く場を増やすことの両方が必要であると考えます。経済の活性化は、広い意味での住民福祉であり、若い世代を含む多くの方々が、夢や希望を持ち、自立していける地域を目指すことにより、ふるさとへの U ターンにもつなげていきたいと考えています。
1-6	産業会館とは何か。各自治体でバラバラで、経済振興が目的とする自治体が多い。土庄町に必要か。 P. 16 に「地元の経済団体や事業者の拠点」とあるが、経済団体数・事業者数は幾つあるのか。小豆島町と一緒に活動した方が良く考える。各種団体の事務室とあるのは、商工会のことか。 P. 12 に商工会会長名文書を記載しているので、社会福社会館から土庄商工会にし、産業会館の中に土庄商工会が入る予定か。	産業会館の具体的な中身や機能については、今後、基本計画を策定していく中で検討していくこととなります。 町内の事業所数は、836 事業所となっています(令和 3 年経済センサス・活動調査)。 「各種団体の事務室」との記載は、産業会館の機能の一例として挙げたものであり、商工会に限ったものではありません。また、小豆島町を含む町外の事業者が、産業会館を利用する又は運営することも可能性として考えられます。 基本計画の策定等に際しては、関係団体として、改めて商工会からの意見や意向を聞いていく必要があると考えておりますが、現段階で商工会が産業会館にどこまで関与するかは不明です。
2	50 歳以上の人が入れる老人ホームや障害者施設を建ててほしい。	今回の基本構想で対象とした 6 カ所の跡地等の中では老人ホームや障害者施設の予定はありませんが、別途、社会福祉法人が障害者のグループホームを小豆島老人ホームの隣接地に建設する計画があり、町として建設にかかる補助を行う予定です。

3	販売先を見つけられていない町内生産者が気軽に販売できる場が必要。産直を作ってほしい。	基本構想に掲げた「産業・観光・交流の拠点となる複合施設」の導入機能例として、物販ブースが考えられるところであり、産直についても検討していきたいと考えています。 これまでにいただいたご意見の中にも産直施設の要望があり、おっしゃるとおり町内事業者が生産物を販売する場を創出することは重要なことであると思っております。 但し、面積上の制約等を考慮した施設規模や、運営・管理を担う主体に関する検討はこれからであり、今後、基本計画を策定していく中で、具体的に検討していくこととなります。
4	旧庁舎跡地は町の中心で地域住民も観光客もアクセスしやすいので、誰もが利用し楽しめる道の駅のような年中無休の施設にしてほしい。高知県佐川町には、おもちゃ美術館、産直、地場産品のレストラン、多目的広場などが複合した道の駅があり、地元の方にも利用され、とても活気づいていた。 町内には、雨の日に子連れで楽しめる場所がないので、広い場所にたくさんのおもちゃや遊具があったり、地域の産業文化にちなんだ遊びができたり、高齢者に昔の遊びを教えてもらえたりすると、移住を検討している人や移住したが地域になじめてない人も島暮らしを楽しめる。 中の店舗は、テナント貸しすれば町としても収益が見込める。	基本構想に掲げた「産業・観光・交流の拠点となる複合施設」は、観光客のみならず住民が日常的に訪れ、交流できる拠点であることを基本目標の一つとしているところです。 「雨の日に子連れで楽しめる場所」、「様々な遊びができる場所」、「老若男女が集う場所」、「授乳室」といったご意見は、具体的な施設機能を検討していく上で参考にしてみたいと思います。 一方で、旧庁舎跡地の面積は約 6,600 m²で、決して広大とはいえません。また、離島であるため、通常の道の駅では期待することができ、道路網を通じて遠距離から訪れるような後背経済圏がないことも考慮しなければなりません。 こうしたことも踏まえながら、今後、基本計画を策定していく中で、整備する施設とその機能を吟味し、土庄町に見合ったものにしていきたいと考えています。
5	丸亀市のマルタスのように老若男女が集い、さらには、赤ちゃん連れや子どもたちが遊べる場所や、授乳室などもほしい。	こうしたことも踏まえながら、今後、基本計画を策定していく中で、整備する施設とその機能を吟味し、土庄町に見合ったものにしていきたいと考えています。